

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和6年1月22日

独立行政法人水資源機構
沼田総合管理所
所長 森合 正人

1. 目的

この歩掛参考見積の募集は、沼田総合管理所で予定している業務の積算の参考とするための作業歩掛を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和5・6年度一般競争（指名競争）参加資格業者の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、利根川水系及び荒川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者数等を記載して提出して下さい。
なお、参考見積書の様式は問いませんが、別紙-2「歩掛参考見積様式」を参考にしてください。
- (2) 提出期間：令和6年1月29日（月）から令和6年2月2日（金）まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構 沼田総合管理所 所長 森合 正人 宛
【担当】総務課 川口
〒378-0051 群馬県沼田市上原町1682番地
TEL 0278-24-5711 FAX 0278-22-7565
- (4) 提出方法
書面は持参、郵送又はファクシミリ（社印があること）により提出するものとします。

4. 参考見積内容

- (1) 参考見積内容
別紙-1「見積仕様書」のとおり。
- (2) 業務作業項目、作業内容

作業項目	作業内容	作業数量
PC アンカー点検	初期点検（現状把握） カルテ作成〔点検記録簿〕	120 基当たり

(3) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

- ① 本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（各編）」（以下「基準書」という。）によるものとします。
- ② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接人件費のうち、上記（2）「業務作業項目、作業内容及び作業数量」を実施する為に必要な技術者数等を徴取します。

(4) 技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和5年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

- (1) 提出期間：令和6年1月23日(火) から令和6年1月25日(木) まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで
- (2) 提出場所：3. (3) に同じ。
- (3) 提出方法：3. (4) に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

- (1) 閲覧期間：令和6年1月29日(月) から令和6年2月2日(金) まで
- (2) 閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とする。

8. ヒアリング

提出していただいた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

別紙－１「見積仕様書」

件名：奈良俣ダム管理所法面 PC アンカー点検（仮称）

第 1 節 業務場所

群馬県利根郡みなかみ町藤原字洗ノ沢 6322-24 奈良俣ダム管理所

第 2 節 業務目的

本業務は、施設の維持管理の観点から、奈良俣ダム管理所法面の法面对策工について、PC アンカーの初期点検（現状把握）を実施するものである。

第 3 節 業務内容

3－1 奈良俣ダム管理所法面 PC アンカー点検

1. 初期点検（現状把握）

奈良俣ダム管理所法面の PC アンカー工は、アンカー頭部の定着具など重要部材が頭部コンクリートで覆われているため、「別表－1 点検項目及び点検方法（初期点検）」に示す「◎」の調査項目を近接して主に頭部コンクリート周辺を現地での目視や打音の確認にて行うものとするが、頭部コンクリート等による被覆状況により目視確認が困難な場合には、その調査項目は調査対象外とする。点検方法は PC アンカー 1 基毎に点検を実施し、頭部コンクリート等の状況写真（上下左右、正面）を添付したカルテ（別表－2 点検記録簿（管理所法面）参照）を作成する。

奈良俣ダム管理所法面は急勾配、高比高斜面であるので、安全には十分注意すること。

なお、点検する PC アンカーは 120 基である。（別添図－1 PC アンカー位置図（管理所法面）参照）

点検記録簿の様式（Excel 形式）については、機構から提供するものとする。

以 上

別表-1 点検項目及び点検方法（初期点検）

項目	主な事項	調査方法	調査項目 ^{注)}	備考	
アンカーおよび斜面・構造物の諸元	斜面形状・寸法	法面勾配, 高さ, 平面形状, 斜面の 方角など	測量, スラントールによる計測, 歩 測, スケッチなど	◎	設計資料がない場合、または設 計図面との整合性
	構造物形状・寸法	種類, 高さ, 平面形状など	測量, 歩測, スケッチなど	◎	
	受圧構造物の形状・ 寸法	種類, 構造, 寸法など	目視, 測量, スケッチなど	◎	
	アンカーの配置	打設間隔, 打設本数, 打設角度な ど	測量, スラントールによる計測, 歩 測, スケッチなど	◎	
	頭部保護	種類, 構造, 寸法など	目視, 採寸, スケッチ, 写真など	◎	
	アンカーの工法	工法名	目視など	○	
アンカーの状況	アンカーの飛び出し	アンカー飛び出しの有無	目視, 頭部の浮き量計測など	◎	目視にて確認
アンカー頭部の状況	頭部コンクリート	浮き上がり・剥離	目視, 頭部の浮き量計測など	○	部分的な浮きか, 全面的な浮き かも
		破損・落下	目視, 維持管理記録など	◎	
		劣化・クラック	目視, クラック幅の計測など	○	
		遊離石灰	目視	○	受圧板との間か防護コンクリート からかも
		湧水の有無	目視	○	防護コンクリートと受圧板をの間 からの湧水の有無
		補修の有無	目視, 維持管理記録など	○	
	頭部キャップ	破損・変形・落下	目視	◎	
		材料劣化	目視, 打音など	○	
		固定方法・固定状況	目視	○	支圧板に確実に固定される構造 か, ボルトの欠損の有無
		湧水の有無	目視	○	
		補修の有無	目視, 維持管理記録など	○	
	防錆油	油漏れ	目視	◎	頭部キャップ周辺の汚れの有無
	支圧板	浮き	目視, 打音など	○	部分的な浮きか, 全面的な浮き かも
湧水の有無		目視	○	支圧板と受圧板との間からの湧 水	
受圧板・受圧構造物	変形・沈下	目地の開き, ずれなど	目視, 測量, スケッチなど	○	
	コンクリート劣化		目視	○	
	遊離石灰		目視	○	
	破損・落下		目視, 維持管理記録など	◎	
	亀裂・クラック		目視, クラック幅の計測など	○	
	背面地山からの浮き		目視, 浮き量計測など	○	
	補修の有無		目視, 維持管理記録など	○	
その他	湧水	湧水量, 湧水箇所など	目視, 湧水量計測, スケッチなど	○	
	周辺状況	地中迷走電流の可能性など	周辺の調査など	○	
	地山全体の変状	変位量, 沈下量, 天端・犬走り上の クラックなど	目視, 測量, スケッチ, 傾斜計・伸 縮計等の計測, クラック幅の計測な ど	◎	変状計測データがあればその データを整理
	周辺構造物の変状	沈下, 変位など		◎	

注) 調査項目の欄において、「◎」は以降の点検・健全度調査において不可欠な項目, 「○」は必要であるが近接調査ができない場合には調査困難と思われる項目

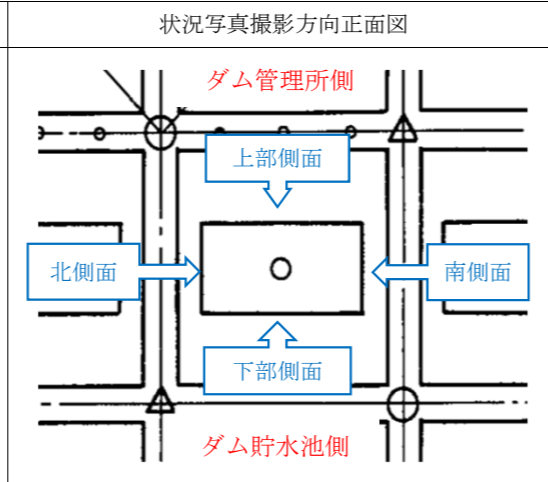
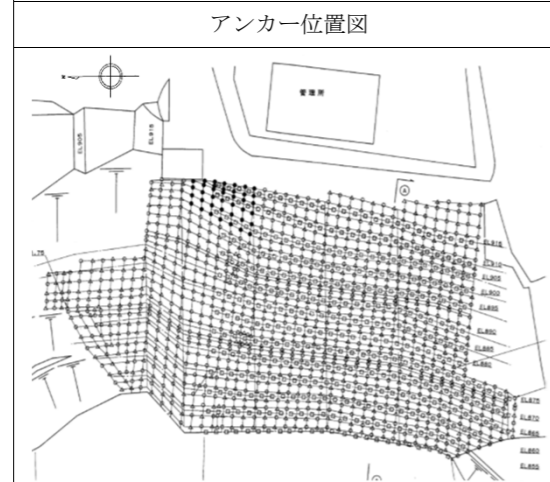
別表-2 点検記録簿 (管理所法面)

【アンカー諸元】			評価	初期点検
アンカーNo.		施工年 (西暦)		工法名
タイプ		設計荷重		定着時緊張力
アンカー自由長		アンカー体長		全長
削孔径		アンカー傾角		アンカー水平角
定着方法	ナット方式	鋼材断面積		降伏荷重 T_{ys}
頭部処理	頭部コンクリート	受圧構造物		独立受圧板 (鋼製)
アンカー標高				

【初期点検結果】		評価	評価 I	評価 II	評価 III
		個数			
調査年月日		調査者氏名		調査時天候	晴れ
アンカー工法	旧タイプの有無	旧タイプアンカー (II)			
アンカーの状態	アンカーの飛び出し	無し	飛び出し長	0.0mm	
	荷重計の有無	無し	残存引張り力	不明	
頭部コンクリート	浮き上がり	無し	浮き上がり量	0.0mm	
	背面からの水の漏水	無し	クラックの性状	無し	
	遊離石灰	無し	破壊・部分的な欠損	無し	
頭部キャップ 受圧板	浮き上がり	-	浮き上がり量	0.0mm	
	材質劣化・腐食	-	固定ボルトの脱落・腐食	-	
	防錆油の流出による汚れ	-			
受圧構造物 周辺状況	数mm幅以上の連続したクラック	無し	クラック幅	0.0mm	
	受圧構造物の大きな変状	無し	沈下量	0.0mm	
	遊離石灰	無し	湧水	無し	

※判定基準：Iが1つ以上、またはIIが2つ以上、またはIIIが3つ以上の場合、健全性調査は必要。ただし、各項目において評価が重複する場合は、最も悪いものを1つだけ計上する。

特記事項

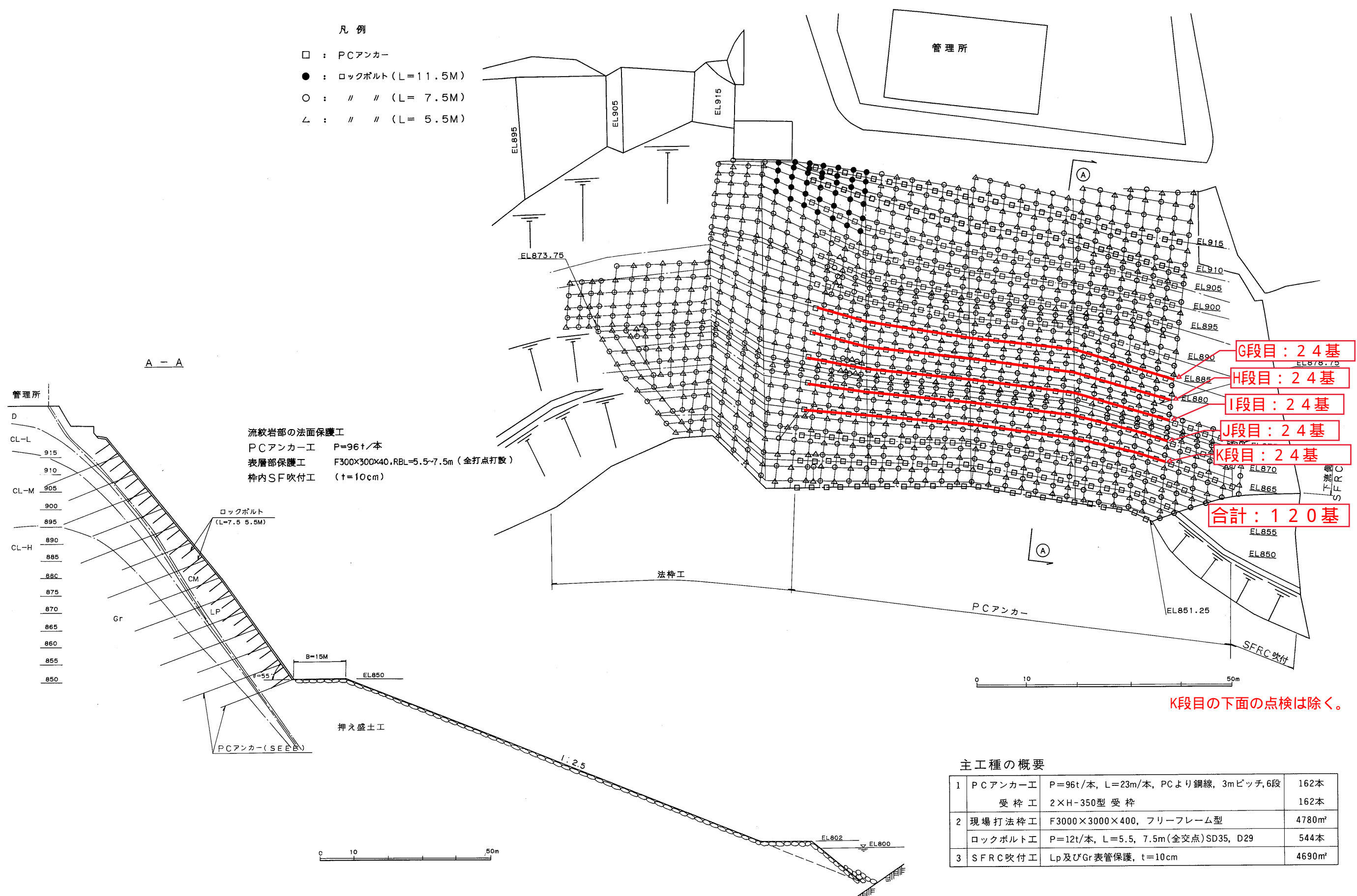


カルテ作成日

カルテ作成者

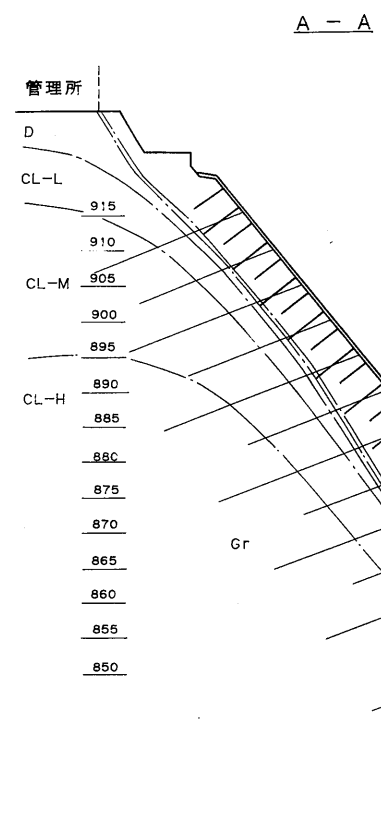
頭部状況写真	
頭部コンクリート上部側面	頭部コンクリート下部側面
頭部コンクリート北側面	頭部コンクリート南側面
変状写真	

- 凡例
- : PCアンカー
 - : ロックボルト (L=11.5M)
 - : // // (L= 7.5M)
 - △ : // // (L= 5.5M)



G段目 : 24基
 H段目 : 24基
 I段目 : 24基
 J段目 : 24基
 K段目 : 24基
合計 : 120基

K段目の下面の点検は除く。



流紋岩部の法面保護工
 PCアンカー工 P=96t/本
 表層部保護工 F300×300×40, RBL=5.5~7.5m (全打点打敷)
 枠内SF吹付工 (t=10cm)

ロックボルト
 (L=7.5 5.5M)

B=15M
 EL850

押え盛土工

0 10 50m

PCアンカー

0 10 50m

主工種の概要

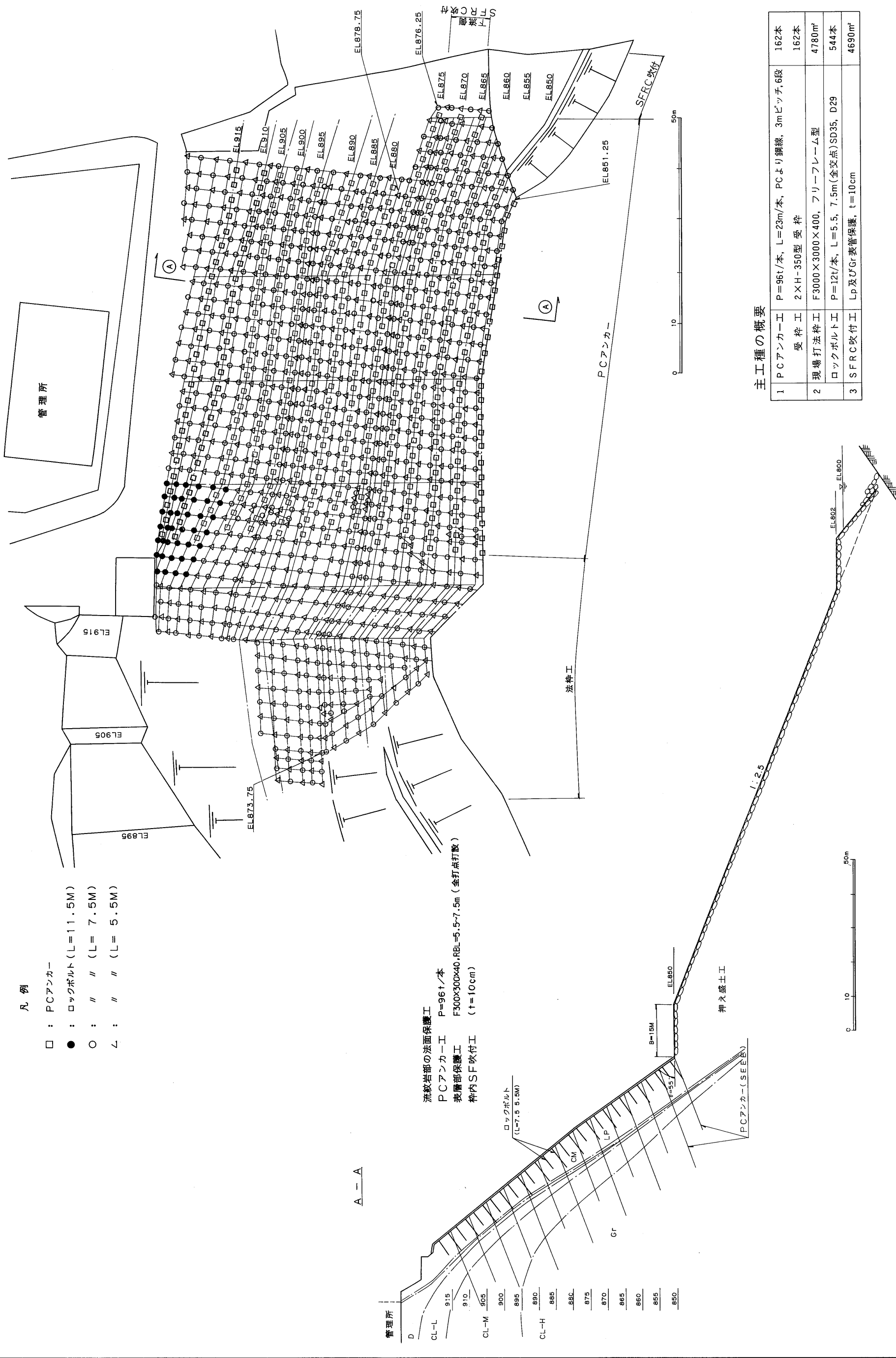
1	PCアンカー工 受枠工	P=96t/本, L=23m/本, PCより鋼線, 3mピッチ, 6段 2×H-350型受枠	162本 162本
2	現場打法枠工 ロックボルト工	F3000×3000×400, フリーフレーム型 P=12t/本, L=5.5, 7.5m(全交点)SD35, D29	4780㎡ 544本
3	SFRC吹付工	Lp及びGr表管保護, t=10cm	4690㎡

法面保護工

管理所

管理所下面保護工
 ・平面図・縦断面図

別添図 - 1 PCアンカー位置図 (管理所法面)



- 凡例
- : PCアンカー
 - : ロックボルト (L=11.5M)
 - : // (L=7.5M)
 - △ : // (L=5.5M)

流紋岩部の法面保護工
 PCアンカー工 P=96t/本
 残層部保護工 F300×300×40, RBL=5.5-7.5m (全打点打敷)
 枠内SF吹付工 (t=10cm)

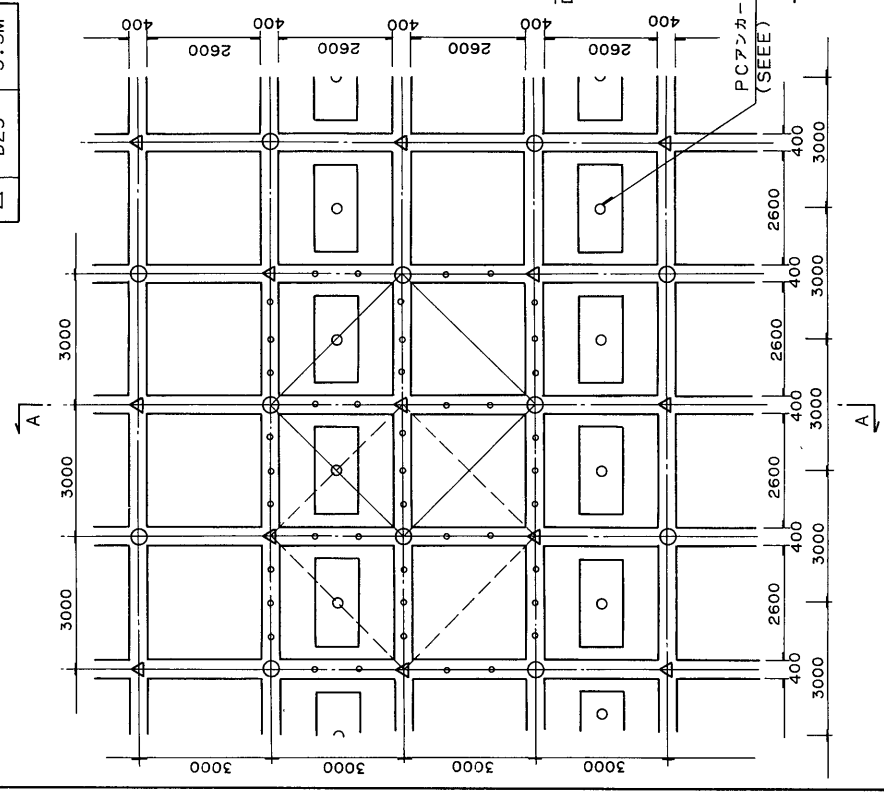
ロックボルト
 (L=7.5 5.5M)

主工種の概要

1 PCアンカー工	P=96t/本, L=23m/本, PCより鋼線, 3mピッチ, 6段	162本
受枠工	2×H-350型受枠	162本
2 現場打法砕工	F3000×3000×400, フリーフォーム型	4780㎡
ロックボルト工	P=12t/本, L=5.5, 7.5m(全交点)SD35, D29	544本
3 SFRC吹付工	Lp及びGr:表管保護, t=10cm	4690㎡

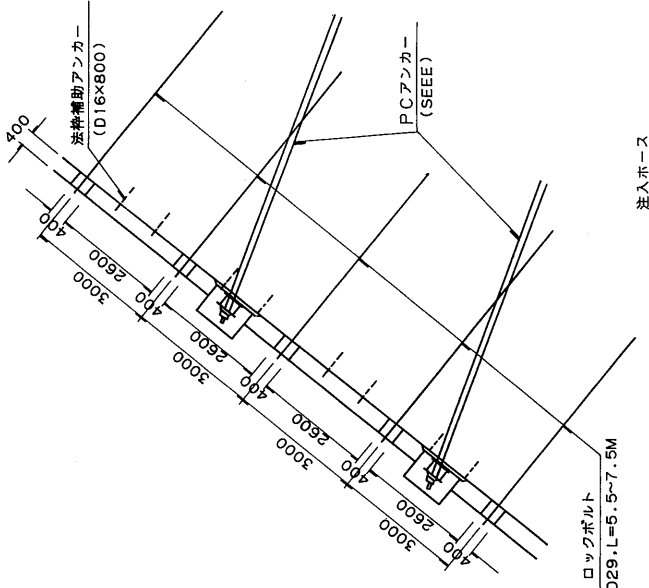
法面保護工
 管理所
 管理所下法面保護工
 ・平面図・縦断面図

法枠工展開図 S=1/1

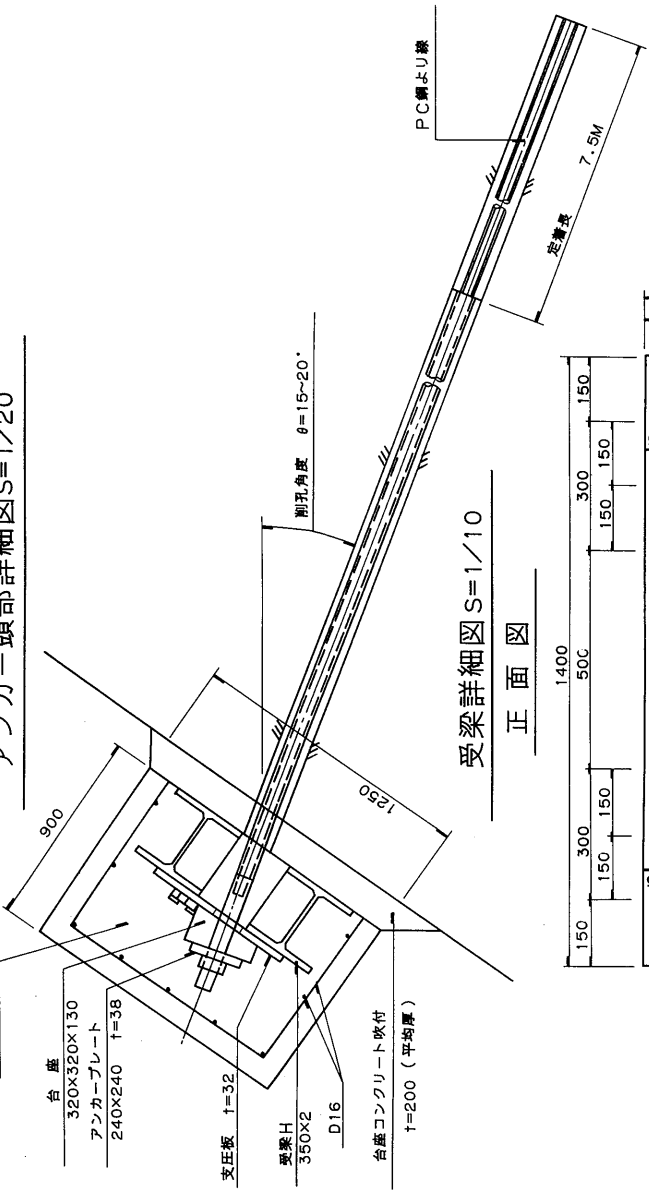


凡例	記号	径	長さ
	○	D29	7.5M
	△	D29	5.5M

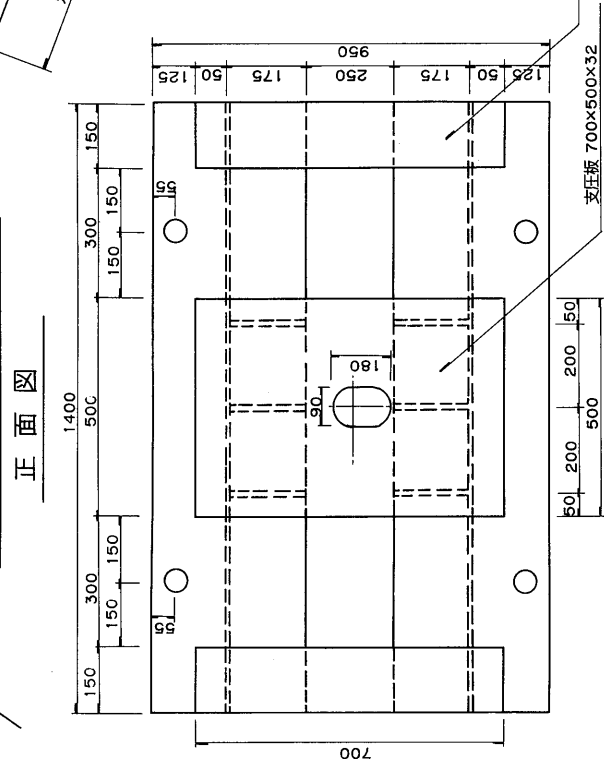
A-A 断面図 S=1/100



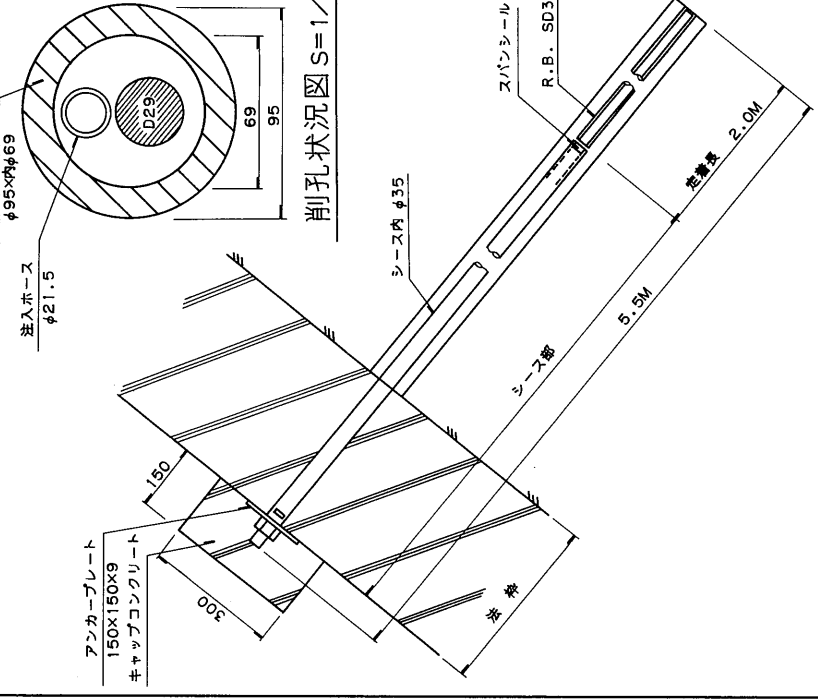
アンカー-頭部詳細図 S=1/20



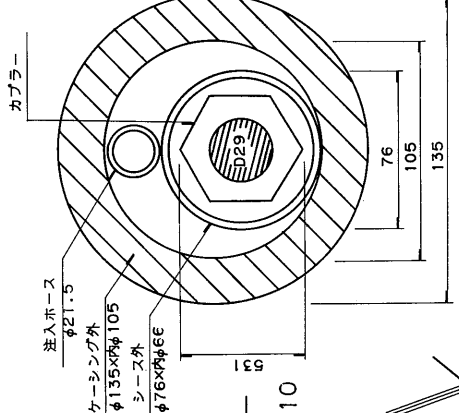
受梁詳細図 S=1/10



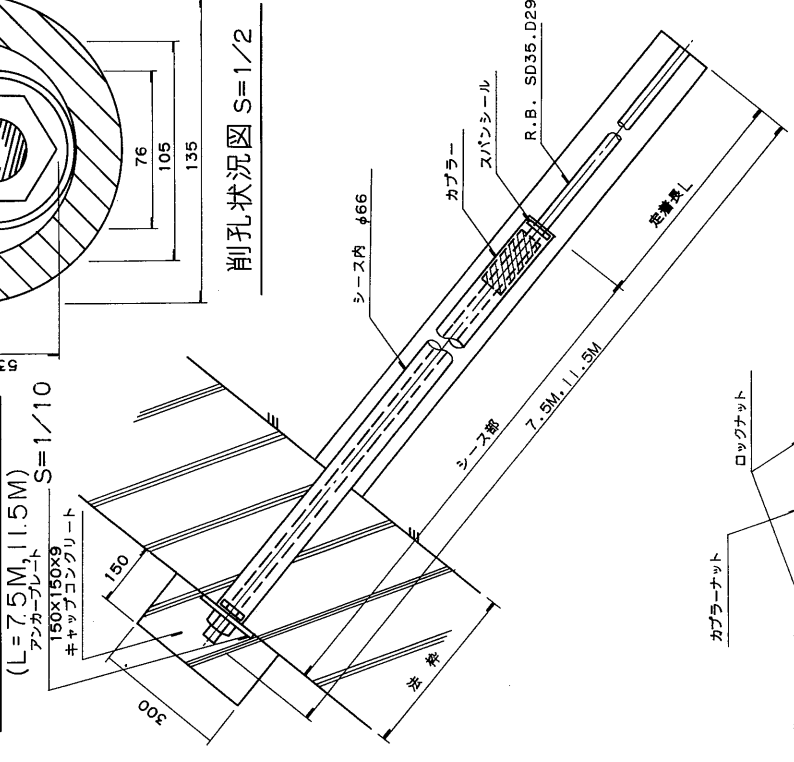
ロックボルト詳細図 (L=5.5M) S=1/10



削孔状況図 S=1/2

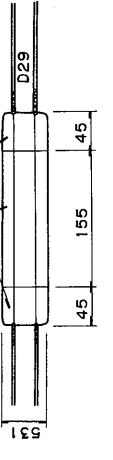


ロックボルト詳細図 (L=7.5M, 11.5M) S=1/10

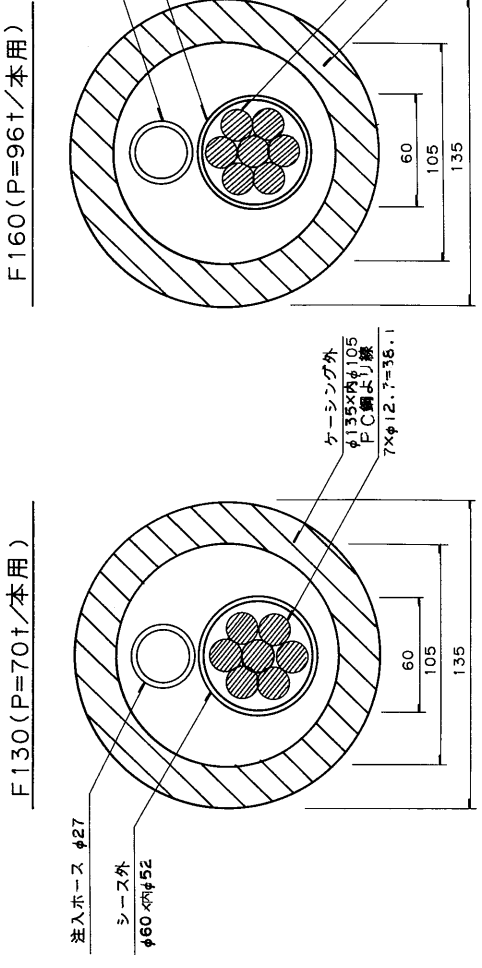


R.B長	定着長L
7.5M	2.0M
11.5M	3.0M

カプラー部 S=1/5



削孔状況図 S=1/2



法面保護工
管理所
管理所下法面保護工・詳細図

参考写真（管理所法面）



別紙-2 歩掛参考見積様式[内訳書]

件名:奈良俣ダム管理所法面PCアンカー点検(仮称)

【内訳書】

項目・工種・種別・細別	規格・条件	単位	数量	摘要	条件等
奈良俣ダム管理所法面PCアンカー点検		式	1		
初期点検(現状把握) カルテ作成【点検記録簿(管理所法面)】		基	120	1次単価表-1	

別紙-2 歩掛参考見積様式[単価表]【記載例】

件名:奈良俣ダム管理所法面PCアンカー点検(仮称)

【1次単価表-1】

奈良俣ダム管理所法面PCアンカー点検 初期点検(現状把握)、カルテ作成【点検記録簿(管理所法面)】

120基あたり

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
地質調査技師		人				
主任地質調査員		人				
地質調査員		人				
※本資料は【記載例】です。必要に応じ適宜編集してください。また、2次単価表など、表現上必要な場合は階層を増やしてもかまいません。						
計						